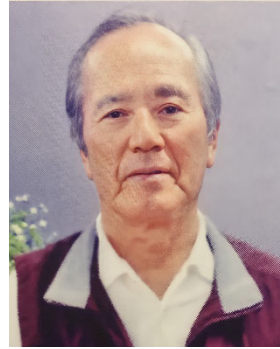


宮里老人クラブ新聞 みやわし

第9号

会長：宮城武松
題字：喜屋武磯江
編集：山下博實

響く海鳴り



新屋孝一さん 自分史を刊行

地域のために半生を通じて貢献してこられた新屋孝一さんが、自分史を発刊された。自分の歩んできた人生の記録である。題して「響く海鳴り」。力強い書体が表紙を引き締める。

座右の銘は

「信念を貫く」

平安座の小さな島に始まった、実に豊かな半生の記録である。紹介された新聞の記事の多彩さが、それを如実に物語っている。

教職の世界で、沖縄市の美東中学にさざなみが起こる。波が際立ち始め、やがて与勝、コザ、そ

きょうのひと笑い（ネットより）

※「癒です」と言われてみたい 頭頂部

※ワクチンのネット予約でひ孫借り

※となたです そういふあなたはとなたです



島袋政子さん
手作り絵でがみ

して楚洲の小学中学へと、島全体を揺るがしていく。波は怒涛となつて日本全国のみならず外国へも。バレーボールを通じて、氏の信念を貫いた熱意が子供たちを突き動かす。「打って、打って、打ちまくれ」と。

行く先々の学校で、チームを優勝へと導かれた。まるでミラクルだ。喜びとかけがえのない自信を持って子供たちの、なんと幸せなことか。教育の神髄を見る思いである。

子供達だけではない。

平安座の地域興し

傘寿を迎えられた今また、生まれ故郷の平安座の地域興しに取かかられている。島のいにしえの偉人世禮國男を紹介し、埋もれかかった遺跡ウフバンタの復元作業を実現する。故郷を愛してやまない著者の思いが伝わって



くる。ご本人自身が「島の偉人」に名を連ねられることは疑いようもない。
（山下）

新屋さんは教職を志し、一九五九年に琉球国際短期大学に入学。理事

長と学長に相談し、男子バレーボール部を結成した。結成したその年の中頭地区職域バレーボール大会で優勝し、当大学として大きな宣伝効果を上げた。

新屋さんの自分史を読んで

山城 正夫

大学卒業後、母校平安座中学校に本採用。教育活動は学級が「核（中心）」になると考え、児童生徒の自主性、主体性、自治能力を育成するため特別活動に力を入れ、研究、実践した。その考えには私も深く

言し、それらの学校の教育全般についても指導したとのこと。

一九八八年～一九九一年 國頭村立楚洲小中学校教員として校長から僻地教育のあり方について、管理職としての学校経営について

て学んだとのこと。那覇です。沖繩市山内中学校長と市、浦添市で教職に従事した私も僻地教育を経験したかった。

北中城村教育委員会に県派遣指導主事として勤務し現場の教師を指導助

学校長に赴任し、これからの学校教育は社会の変

活動に励むように。素晴らしい贈る言葉に感動しました。

さらに、沖繩市教育委員会委員長、市民憲章推進協議会会長、市老人連合会会長、沖繩地区防犯協会会長等各分野に貢献されたことに敬意を表します。

思い出の宝



(聞き取り：山下)

基地に働く 上江洲 安輝



私は具志川市宇川田に七人兄妹の次男として生まれました。自宅はトマト栽培の農家で、ヤギや牛馬の家畜もあり、幼いころから忙しく手伝わされた。小学中学ともに高江洲。高校を卒業と同時に友人の紹介でキャンプ桑江に建築測量士として採用され、那覇天久地区の米軍上級住宅の建築に当たった。同期はY君K君私の三名で、上司は内地から派遣された設計担当のIさんと測定器担当のDさん。面倒見が良く私たち三人をよく食事に誘ってくれた。この間に同期の三人とも運転免許を取得した。これがこの後の仕事に大いに役立つことになる。

米軍上級住宅は二年程で完成し転職を余儀なくされたが、同郷川田区の出身のAさんが、基地で通信士を募集していることを教えてくれた。牧港にあった人事課に行く

新しい職場では通信隊に配属された。仕事は基地内に設置されるいろいろな種類のケーブルの配線作業である。作業は本島あちこちにある基地の中で行われるため、車での移動が欠かせない。作業チームには若い米軍の兵士やフィリピン人がいた。私は配線作業だけではなく、運転手としても重用された。

フィリピン人は概してせっかちで、工具を取って渡すように早口の英語で指示してくる。戸惑ったり間違ったりすると工具を投げつけて来る。そんな態度に嫌気がして、多くの友人が去って行った。幸い私はそんなフィリピン人たちにも受けが良く、一緒に仕事したいとよく声がかかった。配線工事には剰余の計算が欠かせない。計算の苦手な彼らにとって、難なく計算してしまふ日本人は欠かせない存在だったようである。

配線するケーブルは2対芯から606対芯などと極めて多種にわたる。一千本を超える電線を一本ずつねじり合わせ、スリーブを被せる。束ねたケーブルを大きな鉛板で巻いた。今は通信も光ケーブルに替わり、配線も顕微鏡下の作業に変わった。隔世の感がある。

私のふるさと我地 大城 ヨシ



私と主人は週末になると、車で国頭村我地（がじ）にある我が家に向かいます。畑の手入れのためです。五年程前までは、主人は海に潜ってタコやアワビも取っていました。夕方になると、近くに住む96と90になる姉二人に甥の夫婦も加わって、親戚六人の晩さん会が始まります。甥は村の駐在所のお巡りさん。沖縄タイムスにも紹介されました。時に私たちの

き、半田付けをする。そして石鹼液を使ったリークテスト。緻密で極めて根気の要る作業で、多芯の場合二日間は優にかか



結婚は23歳の時。苦楽を共にして無事退職を迎えた。退職後はキャンピングカーと一緒に日本国中を旅することを約束し、それをずっと楽しみにしていた。が、退職の四年後に家内は突然脳梗塞で倒れ、六年間の闘病介護の末帰らぬ人となった。

? 私はだれでしょう?



「子供の頃の思い出と写真」投稿募集中



ね。中学卒業と同時に故郷を離れて、同郷の方が経営するコザの食堂に勤めることになりました。朝十時から夜十時過ぎまで配膳の仕事。厨房では同郷のお姉さんも働いていて、仕事がつらいと思っ



十月にはまた、故郷の畑に大根の種を二人で撒きます。春には収穫、二人で引いた大根を皆さんに配ります。そんな生活を今年も続けられることに、ささやかな幸せを感じています。

写真は新屋千代子さんと、大盛英俊さんです。